福岡県現代俳句協会会報
第61号
令和4年5月

# 福岡県現代俳句協会

会長　福本　弘明

まん延防止等重点措置が三月初旬まで延長になったときに、ひょっとしたらという一抹の不安を抱きましたが、お陰様で無事に総会、大会に加え、懇親会までも開催することができました。心より御礼申し上げます。

さて、桜の開花が始まろうとする今、本来ならば、花見や歓送迎会の話で盛り上がる季節です。ところが、コロナ禍がやや下火になったところへロシア軍のウクライナ侵攻と東北の地震が立て続けに起こり、胸を痛めるところとなりました。

憤りと先行きの不透明感が不穏な影を落としています。

そのような状況の中ですが、いえ、そんな中だからこそ今年度は、いつもの行事をいつものように実施したいと思っています。

また、十一月十二日（土）の第五十九回現代俳句全国大会の開催は、我々が担当します。当地での開催は六年ぶり。実行委員の顔ぶれも入れ替わり、前回の実績は当てになりません。本部の協力を仰ぎながら、この一大イベントの開催に向けしっかりと準備を進めて参りたいと思います。

令和四年度は、多忙な年になります。何卒、これまで以上のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご健吟を祈念いたします。

# 第30回福岡県現代俳句大会

福岡県現代俳句協会総会および第三十回俳句大会が、北九州市小倉リーセントホテルで開催されました。

まず、十三時より総会。令和三年度の事業報告から会計報告、会計監査報告、そして、令和四年度の事業計画と予算案と承認されました。

総会の後、休憩をはさんで十四時より第三十回福岡県現代俳句大会。

片山亀夫副会長の開会の言葉で始まりました。

福本弘明会長の挨拶では、今年の十一月十二日（土）に北九州市小倉ステーションホテルにおいて現代俳句全国大会を開催することをお知らせし、会員の協力を呼びかけました。その後、毎日新聞社事業部長の百留康隆様と文學の森代表取締役社長の寺田敬子様より来賓祝辞を頂きました。

そして、「私の俳句論」というテーマで、俳誌「形象」主幹の高岡修氏による講演です。

高岡修氏は、詩人でもあり、多くの詩集や句集を出すだけでなく、現代俳句評論賞などを受賞された論客でもあります。

吉岡禪寺洞の「俳句は強靭なる詩である」という言葉を「形象」の理念としていることから、詩としての俳句にどう向き合っていくかと言うことをテーマに、熱く語られました。

講師の高岡修氏の講演

特に言葉とイメージの重なりの中で「何を」より「どう表現するか」の方が大事なのだということを強調されていたのが印象的でした。そして、俳句を作る上での自分のこだわりや、方法論など例句

を交えながら縦横無尽の講演でした。われわれ俳句に携わるものにとって意味ある講演となりました。

講演の後、休憩をはさんで俳句大会の入賞作品の披講と選者講評がありました。そして、表彰。大会賞の夢野はる香さんは、入賞句のそのままに夫の看護があるということで残念ながら欠席でした。

◆大会賞

親を看て夫看てやがてヒヤシンス　北九州市　夢野はる香

◆毎日新聞社賞

竜の玉よきことのみを母に告ぐ　福岡市　土田　利子

◆月刊「俳句界」賞

鮟鱇の心底までも捌かれる　北九州市　中川屺城子

毎日新聞社賞の土田利子さん

〈秀逸賞〉

義士の日や食卓塩の固まりて　宗像市　吉田　玉

リモコンを押し間違えて雪になる　北九州市　太田　一明

しずり雪すこしずつ日常がずれ　福岡市　大瀬益太郎

羽子板やあさき夢のみかかへゐて　福岡市　秦　夕美

辛抱の棒立て直す春隣　北九州市　安部　泰子

幼子の凧は地球を引き摺れり　北九州市　中島直四郎

〈佳作賞〉

十二月八日の胎児宙を蹴る　福岡市　小出　達夫

散りもみじ自由の身にはなれたけど　宗像市　三舩　熙子

霜柱見えない水の力こぶ　北九州市　鍋屋　立子

化野の空を離さぬ木守柿　下関市　墨海　游

除夜の鐘行ったり来たりしてをりぬ　飯塚市　矢野二十四

二人から一人になる日の朧月　北九州市　木村　直子

五分だけ泣いて水仙生け直す　直方市　福原　弘子

春の闇ぬっと不穏できっと甘い　福岡市　神﨑　香澄

〈奨励賞〉

夏至の日はちょっと優雅にすごします　北九州市　池田　七見

コロナコロナひとりぼっちで学校へ　直方市　池田　元飛

参加者一同に会して

## ◇◇◇◇◇◇◇「私と俳句」

山本　則男

松尾芭蕉の句に次の句がある。

五月雨に鳰の浮巣を見に行む

私はこの句の「鳰の浮巣」が見たくて、日本野鳥の会に入会した。探鳥会は天拝山で行われていたので参加した。実際に「鳰の浮巣」を見ることが出来たのは、二年後であった。このときは、池の真中に浮巣があり、二羽の雛が孵化した。

元「白桃」主宰の伊藤通明師の書物に『秀句三五〇選2・鳥』(蝸牛者)がある。この本は、三五〇句の鳥の例句にコメントを付けたものである。この例句から、一日一句を作ることにしたのは、平成二十五年一月一日である。作句した鳥の句は、「白桃三輪句会」の折に伊藤通明師に選句していただいた。

これらの句を、日本野鳥の会福岡支部発行の「野鳥だよりふくおか」に自句自解の形で三年の間、連載した。しかし、伊藤師は平成二十七年九月に逝去されたので、この年に連載を中止した。

現在は、「天籟通信」に「鳥の歳時記」を連載している。自句自解ではないが以前の連載の延長線上にある。昨年の収穫は、角川「俳句年鑑」の令和俳壇・心に残る秀句で伊藤伊那男が選ぶ三〇句に「空海の食事の時間ほとぎす」が選ばれたことである。

## 会員特別作品二〇句

### 「一滴の夜」

田中　葉月

たんぽぽや仮面でしょうかいいえ風
椿一輪ゆっくり息を吐ききつて
春の闇みどり児だけに見えるもの
山姥の爪よくのびる桜東風
白梅や空の真澄をいただきて
一滴の夜一対の天道虫
きしきしと夢の擦れる燕子花
ピーマンを切れば淋しき貌ふたつ
ふつうに生きふつうに羽抜鶏はしる
とりはずす鬱の字画や星涼し
つくづくひとりつくづく水草紅葉かな
天網のほころびかしら蚯蚓鳴く
色鳥や明日は曇りのち晴れでせう
秋夕焼鳥には見ゆる鳥の国
冬の蝶わたしの中に眠りをり
まあだだよ枯野に星のかくれをり
寒満月やをら歩数をかぞへけり
天涯やブロッコリーを抱きしまま
片貌をとりかへゐたり冬夕焼
後の世はすずなすずしろ星を飼ふ

### 「なみだ雨」

三舩　熙子

春風になれぬ仕舞の未来あり
浮世から遠くはなれて白椿
春風やさみしくなりし住所録
身の内の水は春雨なみだ雨
春風は小言コロナに負けている
笑い方わすれた春の風ばかり
春風に外出自粛の札さがり
かわたれを白い椿として過ごす
ふるさとは昔も今も藪つばき
背を押してくれる風待つ藪つばき
春風にゆれて揺れます日本地図
落椿なおくっきりとある個性
捨てきれぬものほろほろと春の雨
うらおもてなき白つばき藪つばき
春風になってしまえぬこの齢
加齢とはさくらふぶきに似ていたり
終電のあとは椿にもどります
落つばき夢見心地という形
コロナにも言い訳のあり春が行く
つながりし命のありてあたたかし

# 会員三句競作

今回も、会員の皆様に「当季雑詠三句（三句内）、そのうち一句は風の句で」自由参加ということで募集したら、たくさんの方が投句してくれました。ありがとうございます。なお、配列は到着順です。

山浦木公子

岩風呂ゆ由布山焼きの火龍めく
枝垂れ梅の宙に出入りの老い独り
ミラノ駅のミモザ売り子や想ひ出に

矢野二十四

いちりんしゃ春風のせてきたりけり
ばあちゃんの甘露煮じいちゃんの目刺
曲水や鼻梁に高き低きありにけり

安徳由美子

キエフ侵攻踏みしだかれて春の野辺
大戦前夜風をはらんでゐる桜
政治家の野望にたんぽぽ踏みしだかれ

木村　直子

風は枝鳴らさずに気球は天へ
春風を真中に恋はおわりぬ
風薫るゆるやかに衣の袖通す

山本　修

硝子雛万華を抱く頼み事
早朝のしじまを濁し匂ひ鳥
陽炎を追ふてかげらふ又陽炎

宮原　安徳

風やさし紫大根の花の径
花あざみ蕾に溢るる意気たのもし
蕗の薹両手にあふれ庭めぐり

山本　則男

触れてゐるところが春の真中です
蝶になる前のしぐさが忘られぬ
くちびるの周りの夜や風信子

三舩　熙子

子から子へ渡しそびれし春の風
コロナ禍を横目にさかんなる芽吹き
春風のまん中にいてひとり

中川屺城子

紙風船破裂をさせて戦する
身の錆を風に落としてさくらの夜
道化師の風にふんわりブランコ漕ぐ

上月　大輔

春疾風　原子炉の村地図にない
蛙とびして塾の兒ら帰る
思いやり深き椅子なり夕桜

土田　利子

立春や向ひの家の前も掃く
選ばれし家の軒なり燕の巣
自転車の少女の背すぢ風光る

堀川かずこ

閉ざされる道のり越えよ桜東風
光明は世論のうねり春の風
春一番プーチンの鼻息かも知れぬ

天川　悦子

冬ぬくし人の噂で今日も暮れ
着ぶくれて風の露店に立ち留まる
亡き友の好みし唱歌「冬景色」

中村　和男

銀輪を駆ける少女や風光る
立春の埃ひとつなき薔薇の棘
廃校の跡かたもなく鳥帰る

小倉　斑女

風を読むことは苦手や月日貝
囀りの夕暮れに鍵掛けてをく
躑躅炎ゆ老ひゆくものに寺男

秦　夕美

風船のゆくへ戦をなりはひに
なぞは謎のままにひぐれの風信子
貝寄風に乗りたやアラブの馬つれて

おっぱいはきょうでおしまい風光る
そら耳とこたえてしだれ桜かな
豆の花あばら骨なら十二本

上野　一子

ふらここやのんちゃん雲に乗るつもり
春風やＩＣＵから病棟へ
様々なことのありけり祝卒業

水城千恵子

風花や母に呼ばるる心地して
貝寄風の浜にひろひし貝の紅
花満てる枝をゆらして鳥さやぐ

引野美沙子

龍天に登りし里の耕運機
ウクライナへ雪を踏み敷く戦車隊
春風にゆらりゆらりとかずら橋

広瀬　邦弘

やうやうに出水野訪はば花菜風
暴挙とは感じぬ心安吾の忌
引鶴の点となりつつ嶺越ゆる

山際はるか

春風やうどんを啜るおとがする
日めくりをめくれば春のうららかな
逃げ水や秘すれば花といふけれど

森　さかえ

買物に歩いて行こうか春の風
住みなれしここが一番花大根
自販機のかすかな鼓動花の冷え

福原　弘子

空虚なる胸の一株水仙花
美しく老いを演じて花吹雪
苦も楽も鼻をくすぐる春の風

片山　亀夫

紙風船まだ追いかけている傘寿
でもそれでも風は吹かない五月病
つちふるや青空に溜まるセシウム

岩坪　英子

桜よりはらりと淡き少女かな
胸襟を開けば春の風が吹く
寝過ごして花の駅までまた眠る

木村　厚子

幾万の蝶とびまどふ風の闇
ぼたん雪歩幅のちがふ人とゐて
鳥風やグラス一杯嘘をつく

田中　葉月

思い出し笑いのようにパンジー咲く
戦争のあとにコマーシャル春嵐
蘖やあっという間のわが昭和

松岡　耕作

大小は問わず取り来し初浅蜊
春寒し少し猫背の日本地図
春風や河童の駅で降りてみる

中島直四郎

風しまく浅瀬の一羽冬の鷺
花ミモザ二科展へ急く小糠雨
八十路越え「俳句と人間」読む彼岸

川原　昌子

後戻りする歴史なり山霞む
戦うは人間将棋春の風
万愚節フェイクニュースにご用心

本田　進

路地裏を曲がればきっと春の風
路地裏のどぶの匂ひも春の風
ビル街の小社に出会ふあたたかし

大瀬益太郎

春宵や般若の額のうす笑い
少女らの会話跳ね行く木の芽雨
春の風生みしか出尻土偶群

影浦ようじ

宛先ごとに切手を変える春の風
ウィルス花粉ミサイル飛んで四月馬鹿
行く春やネイサン・チェンの荷にギター

川﨑美知子

手秤で目高に餌を薬剤師
柳絮飛ぶ私はここに根を下ろす
庭水仙に病室までの旅させる

玉井　葉子

さくらさくら風に囃されよもつまで
貰い手をさがし大根引きにゆく
モノクロに街のふくらむキーウ冬

芳賀登喜子

もしかして青空だから春風だから
ミモザの黄生きるため生まれたの
人参が太くて父や母のいない

鍬塚　聰子

忘られぬ五右衛門風呂やなごり雪
予想だにしない新茶の届きおり
こいのぼり海の向こうを見詰めおり

香山つみれ

人間はひとにまちがう花の冷え
昼顔の風のあおあお水平線
下萌の押しゆく未来乳母車

鳥巣　徳子

# 俳句あれこれ

会報発行の継続ご苦労様です。小生事九十二歳超の精神科クリニック医として尚『現役。コロナ禍のストレスで、不安・抑うつ・不眠の苦訴で、三密回避もならず聴き役中です。ご健勝祈ります。

木浦木公子

**鳥がみんな風の形している春**

三浦　博子　十三歳

この作者のやわらかな表現、鳥のこつんと鳴るような音信の表現に作者の初々しさが見える。

木村　直子

山本健吉氏の「感動から物へ、物から核心へ」の言葉を肝に銘じているつもりですが、中々思う様に表現が出来ません。努力不足を痛感しております。

山本　修

俳句を作る人たちを「俳人」とマスコミは言っているが、私には〈廃人〉としてしか聞こえない。同じ文芸作家（詩・短歌・川柳）ならば「俳句作家」と書くべきでは？〈俳人〉のひびきが悪い。かつてボランティアで介護所に行ったとき、〈噛みつき（上月）〉さんかと言われ、「優しい皆さんに噛みついたり致しません」と笑わした。

上月　大輔

「月明の彼一発に打ち得る距離」この句は、今から七〇年程前「自鳴鐘」同人であった「牧すず」という人が作句したものである。当時としては、感覚と言い、内容と言い、非常に新しく、私などは〝これが俳句？〟とびっくりしたものであった。自分の現在の句を省みて反省することしきりである。

天川　悦子

私は俳句を書くことより、他人の句を鑑賞するのが好きである。だから新しい感性と出会える句会を楽しみにしている。松尾芭蕉に「謂ひおほせて何か有る」という言葉がある。俳句は表現上半分ほどの余白が必要であると解されているが、最近は意味を伝えることを第一義としている句が多いように感じている。想像力を喚起してくれる余白の大きな句を鑑賞することを楽しみにしたいと思う。

中村　和男

俳句を始めたきっかけは全然思い当たりません。夫と死別してすることもないままにぼんやりしていた頃友人が俳句に誘ってくれました。初学の頃中村苑子の句を知りずっとあこがれています。今も俳句を作り続けるのは苑子氏の俳句に近づきたいからだと思います。死ぬまでに一句くらい近づきたいと思いながら程遠い句をたれ流している。

小倉　斑女

**三月の海へ瞳を開く花芽たち**

静岡　植田　密

静岡は富士山を背景に太平洋へ開く地。早春の海光のきらめきに山や川は目覚め、草や木も一斉に芽吹きはじめる。諸々の生命の躍動

感にあふれる佳句。

引野美沙子

俳句とは。俳句は詩である。詩とは何ぞや。「さまざまな感情、思想などを一定の韻律を持つ形式で表現した文学」と辞書にある。俳句には五七五のリズムこそ命なのだろうか。

片山　亀夫

**露ふたつ契りしのちも震へをり**

真鍋　呉夫

たとえば芋の葉の露が溶け合い、ひとつになる光景をめにする機会はたなにあるが、そのような景をこんな艶のある言葉で、しかも一歩踏み込んだ内容で表現されると、つくづく俳句の世界は深いと感銘した一句である。

大瀬益太郎

こんなに長く俳句と付き合うとは思ってもみなかった。新聞に句会のメンバーの募集記事があるからという友人の誘い。俳句を作る母親ともっと話が出来たらという殊勝な思いに応えておそるおそる参加した。会も終わり、帰り仕度でざわざわしていた頃、主催者が気になる句がありました、と。なんと私の句。それが私の俳句冒険旅行のはじまりだった。

中西みつよ

**二月の雨はいきなりふってくる**

とんげ（小六）

ショットバー、グランパで呑みながらのグランパ俳句会は、このコロナとオーナーの急死でネットズーム句会新しい風を！と、FBでつながっている友人の息子のつぶやきが俳句だったので勧誘。運よく福岡県現代俳句大会で「コロナコロナひとりぼっちで学校へ」が寺井谷子さん特選で奨励賞をいただいた。芭蕉の「俳諧は三尺の童にさせよ。初心の句こそたのもしけれ（三冊子）」です。

鍬塚　聰子

# 句会探訪

## 「天籟通信折尾堀川句会」

3月12日（土）に、八幡西生涯学習センターで行われる「折尾堀川句会」にお邪魔した。手作り弁当に紙コップに酒まであって、ありがたくいただきながら始まる。参加者は私を含めて天籟通信の10名。事前投句で「道」の兼題一句をふくむ三句がランダムに並んでいる。それぞれ5句選の結果

**6点、木の芽風名まえばかりのニュータウン**

夢野はる香

**5点、頃合いに腰を折りたる木の芽和へ**

金澤　晋治

**4点、菠薐草あごにちからが入ります**

上野　一子

**道筋のつかぬ話や黄砂くる**

松尾　安子

**さくら咲くどうかさくらで終りたい**

森　さかえ

**道草の途中とちゅうで散るさくら**

山本　悦子

天籟通信の福本弘明代表の司会で、気心の知れた仲間の丁々発止のやりとりが面白かった。一段落したところで、当日席題の「草」が出される。初めての私は、「聞いてないぞ」と思ったのだが、みんな既に沈思黙考に入っている。やれば出来るもので、それぞれ二句から三句を出して選に入る。その結果、

**5点、草々と書いてさくらは散りはじめ**

森　さかえ

**4点、草餅や音のはずれしハーモニカ**

山本　悦子

**3点、道草はあなたまかせよおぼろ月**

堀川かずこ

なぜか私の句が5点。次回の兼題を出せと言われる。「夢」を出して終了。

（レポート　森さかえ）

# 会員句集紹介

## 堀川かずこ句集「風の通り道」

のりしろの足りない春が来てしまう
触らせてもらう福耳もものはな
春暁の口紅どれも出番待つ
誰もみな母から生まれる豆の花
一本の線さえ曲がるこどもの日
木の芽風何はともあれ手を洗う
大輪の真っ赤な薔薇は疲れます
頬の皮引き上げてみる大暑かな
雲の峰園芸店で売れ残る
新涼のボタンを全部押してみる
酔芙蓉わすれることで来るあした
気まぐれな秋だね塩が足りないか
うろこ雲ひとは螺旋に老いてゆく
大かぼちゃ来世はをんなでもいいか
冬の虹黙っていては届かない

## 秦　夕美句集「金の輪」

誰の忌と知らで泰山木の花
終章は鬼灯鳴らす音ばかり
草の絮太古の闇を見据ゑつゝ
その声はたしかに異界黄水仙
ふつと死は肩よせきたり雪柳
変身のはじめは雨の花薊
さういへばどこかけむたき昼寝覚
「地獄変」そのかたはらのをみなへし
音立てゝ狐火生るゝ筑紫かな
深沈と枯野は人を恋ひにけり
薔薇に雨とても死ぬとはおもへない
髪洗ふ故郷は熱をもたざりき
さみしいといへぬさみしさ花石榴
八月や息するうちを人といふ
まあそれは別の世のこと細雪

## 中川屺城子句集「幻を視る」

ほうたるがぼくをあやめにくるところ
火蛾狂うあなたじゃないのあなたなの
葉桜にうずくまる透明な死
「風の電話」ごめんなさいが言いたくて
雪原に幻視んと鹿の佇つ
透明という色のあるなり氷魚籠
妻眠りおり雪虫群れており
曼珠沙華私と同じ顔がくる
土手に出る　いいえそれは蛍です
著莪の花母の遺品に亡父の文字
漠然と坐してはみても師走なり
十三夜さりげなく影ついて来る
初秋や無用の臓器と言われても
亡父が舫う残夏幻の駆逐艦
かなぶんぶん空母にぶつかって死ぬ

**《会計からのお願い》**

※令和４年度年会費（一千円）のお済みでない方は納入をよろしくお願いします。
納入は同封の振替用紙でお願いします。
なお、前年度の分が未納の方は併せて納入お願いします。

（会計　上野　一子）

福岡県現代俳句協会会報
令和４年５月（61号）
発行人　福本　弘明
編集人　森　さかえ
発行所　福岡県現代俳句協会事務局
〒839-0223
みやま市高田町岩津２９９
森さかえ方
Tel.0944-22-5332　Fax.0944-22-2530
印刷所　三池印刷